

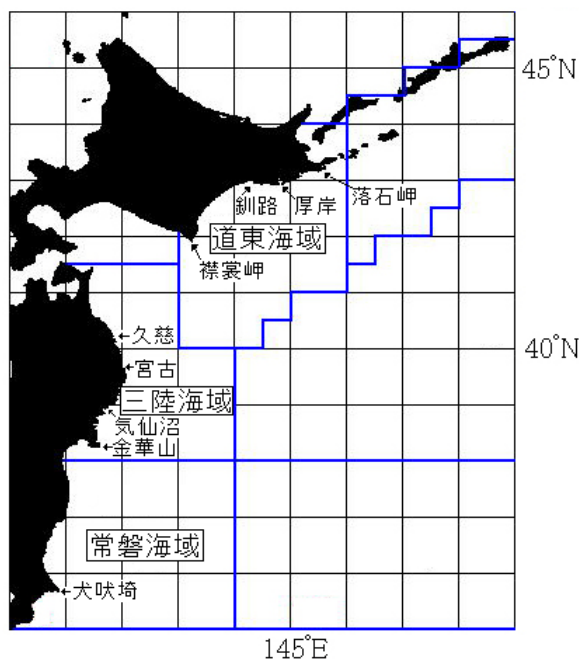
平成27年度 第6回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2015年11月上旬～12月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、11月上旬に終漁となる。
- ・三陸海域では、11月上旬から来遊量は減少し、11月上旬は中位水準であるが、11月中旬以降は低位水準となる。
- ・常磐海域では、11月上旬は低位水準であるが、11月中旬は中位水準となる。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成27年度 第6回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2015年11月上旬から12月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、11月上旬は散発的となり、終漁となる。

(2) 漁場

道東海域では、11月上旬は、襟裳岬沖に散発的に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

11月上旬から来遊量が減少する。11月上旬は中位水準であるが、11月中旬～下旬は低位水準となる。12月上旬は、断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

11月上旬は三陸北部～南部が、11月中旬～12月上旬は三陸南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

11月上旬は、低位水準ではあるが来遊がある。来遊量は増加し、11月中旬は中位水準となる。11月下旬は中位水準であるが来遊量は減少し、12月上旬は低位水準となり、12月中旬は断続的となる。

(2) 漁場

11月上旬は常磐北部、11月中旬～12月上旬は常磐北部～南部、12月中旬は常磐南部が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量	— →				
	動向	断続的				
	漁 場	襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量	↘	↘	→	— →	
	動向	中位減少	低位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	北部～南部	南部	南部	南部	
常磐海域	来遊量	→	↗	↘	↘	— →
	動向	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部

3. 漁況の経過概要（10月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬並で、前年を下回る低位水準であった。道東海域よりも南側（三陸海域よりも東側）における来遊量の水準は、前旬を上回った。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域は、期前半に来遊量が増加したが、期後半は減少した。また道東海域よりも南側における来遊量は、期後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石沖が漁場となった。落石南～南東沖の40海里付近（12～14℃）では、16日夜まで小型船が数隻～20隻程度操業し、1～10トン漁獲した。

また道東海域よりも南側の落石南～襟裳岬南南東沖の140～160海里付近（12～15℃）では、連日大型船1～25隻程度と小型船数隻～15隻程度操業した。大型船は1～110トン、小型船は1～30トン漁獲した。また落石南東200～240海里付近（10～15℃）でも、連日大型船1～25隻程度と小型船数隻操業した。大型船は4～115トン、小型船は25～35トン漁獲した。

(3) 魚体

道東海域では、体長25～26cmモードの中型魚主体で、体長29cm以上の大型魚は1～2割程度であった。道東海域よりも南側の落石南～襟裳岬南南東沖の140～160海里付近と、落石南東200～240海里付近では、体長30cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が1～2割前後混じった。大型魚の体重は120～130g台が主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、前年を下回る低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、三陸海域は、期後半に来遊量が増加した。

(2) 漁場

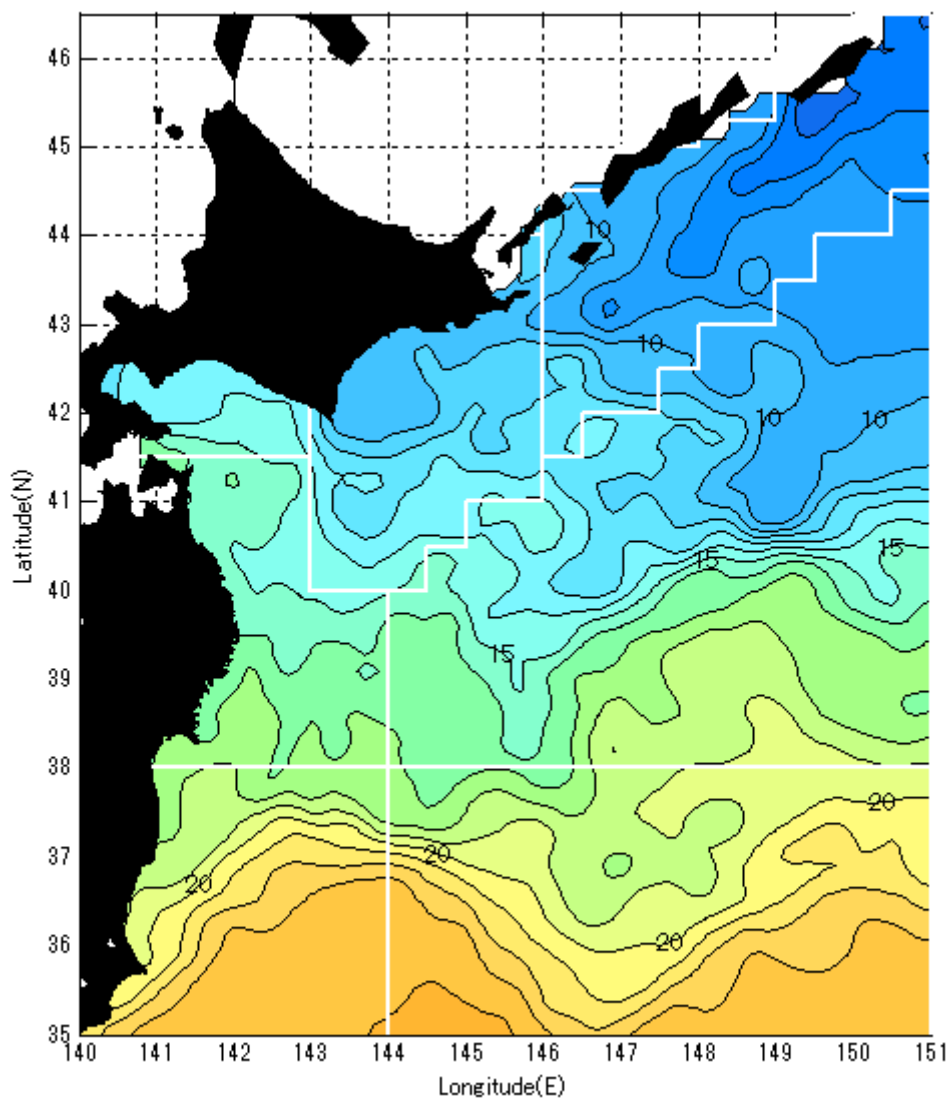
三陸海域では、釜石～金華山沖が漁場となった。釜石東10海里～金華山東10海里付近（17～18℃）では、19日夜に大型船5隻程度操業して15～35トン漁獲、20日夜に小型船10隻程度操業して数トン～30トン程度漁獲した。

(3) 魚体

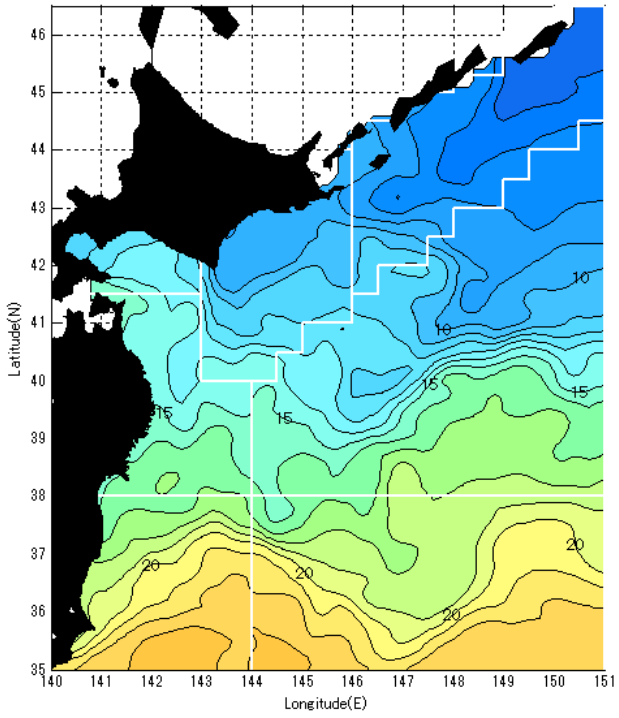
三陸海域では、体長29～30cmモードの大型魚主体であった。

4. 予測水温分布図

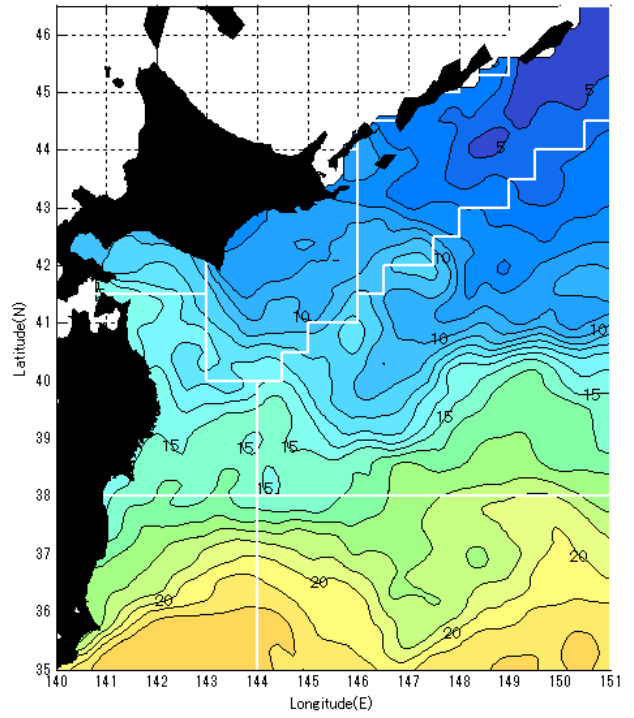
11月上旬予測表面水温分布図



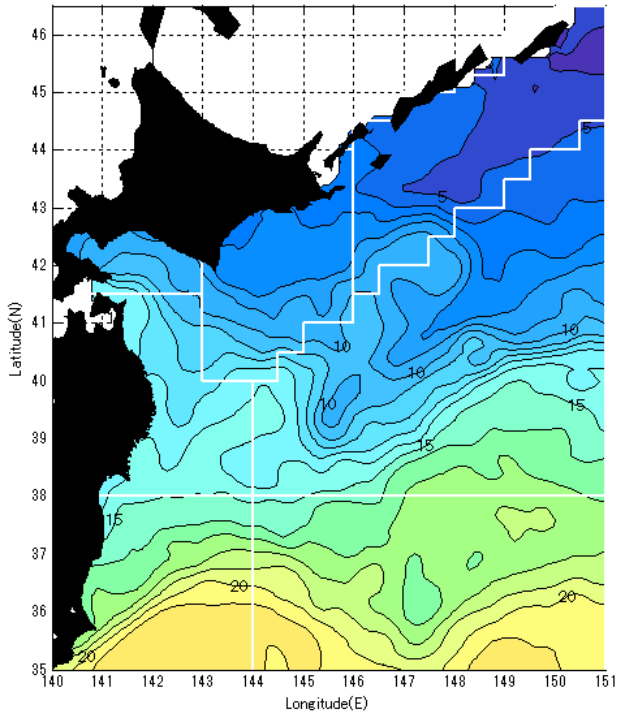
11月中旬予測表面水温分布図



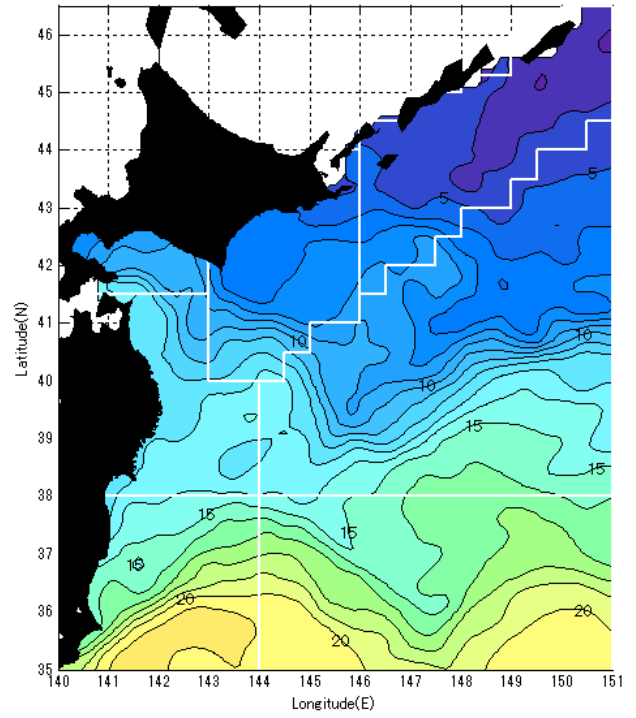
11月下旬予測表面水温分布図



12月上旬予測表面水温分布図



12月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---